

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立巨勢小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

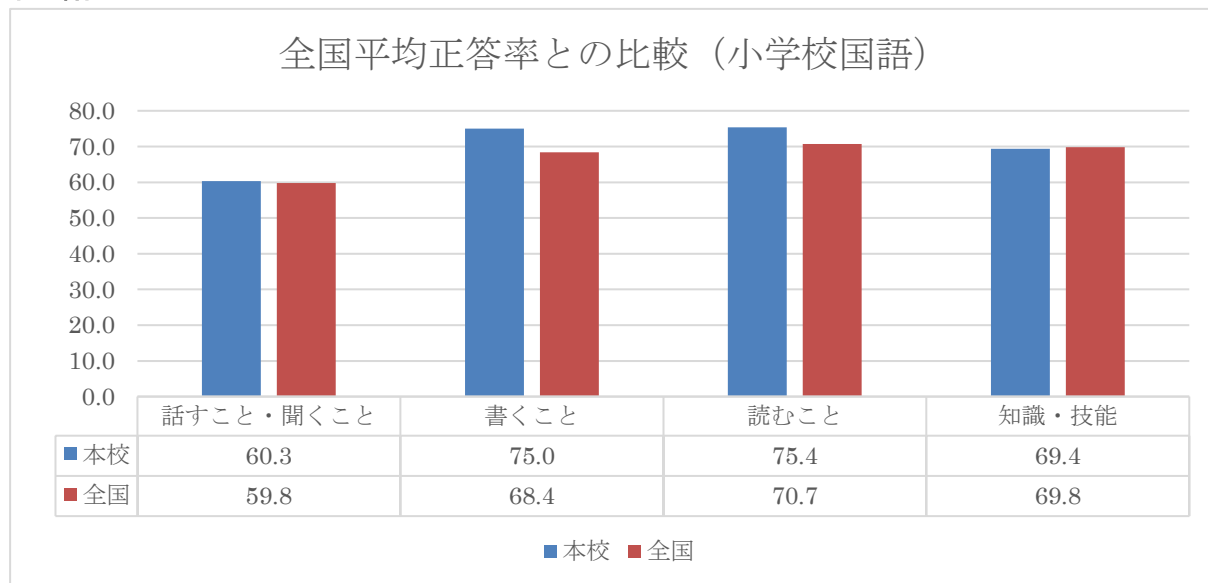
児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心, 授業内容の理解度, 基本的な生活習慣, 家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組, 指導方法の工夫, 学校運営に関する取組, 家庭・地域との連携の状況 など

■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国 語



(1) 結 果

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「書くこと」の正答率が全国平均正答率を6.6ポイント上回りました。中でも、「文章の中に入る空欄を、取材メモを基にして書く」では、全国平均を大きく上回りました。日頃から作文の指導（振り返り活動など）に取り組んでいる成果だと考えられます。課題は、「知識・技能」です。その中でも「言葉の特徴や使い方に関する事項」の漢字の問題で、全国平均を10.1ポイント下回りました。同音異義語を苦手に行っている児童が多いようです。児童の言語力を高める指導は、文章力、読解力の高まりにもつながります。授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

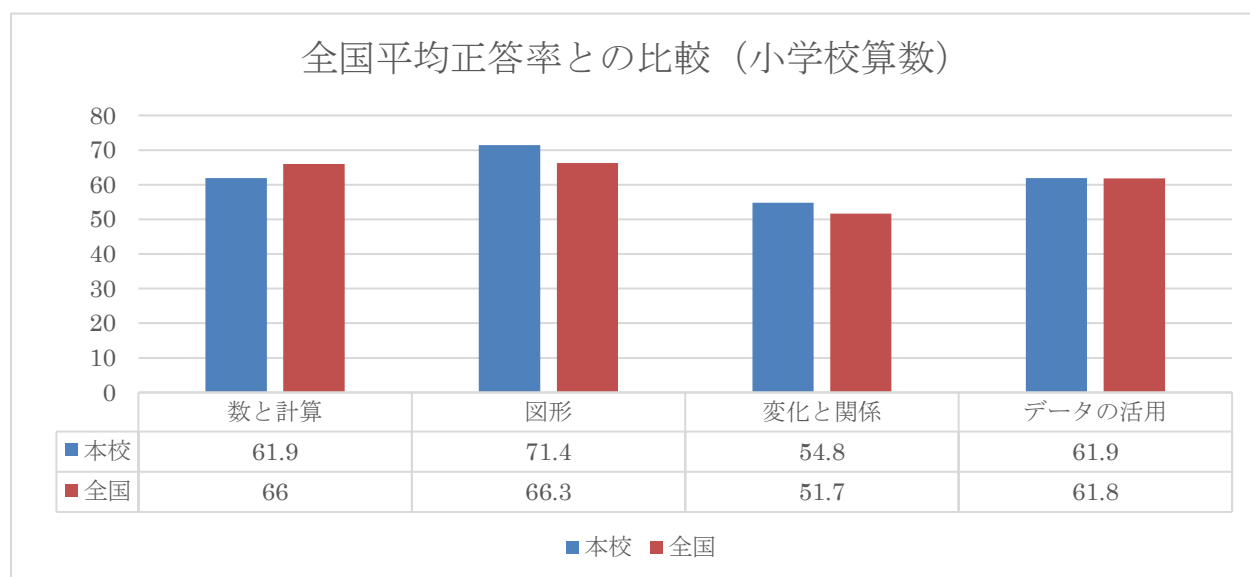
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。

2 算数



(1) 結果

「図形」「変化と関係」「データの活用」で全国平均正答率を上回っています。「計算が成り立つ性質を活用した」記述式の問題については、無回答率が全国平均よりもやや上回っています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、3つの領域について全国平均正答率を上回りました。図形の学習でタブレットを活用したり、自分の考えを論理的に書く機会を増やしたりなど、授業改善の成果が表れていると考えられます。課題は、「数と計算」の領域で、割り算の仕組みや小数の割り算の計算の正答率が全国平均を下回っていました。

式から答えを出すだけではなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式、絵や図、具体的場面を行き来させることで、基礎的・基本的な概念や性質について理解ができるようにすることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 基本となる四則計算の力が高まるように、復習も含めた計算問題に取り組ませます。さらに、正確に計算できるように、四則計算について技能の定着を図ります。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を継続していきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- TT少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数が好きになるには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	76.2	83.4
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	23.8	39.7
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	40.5	56.1
自分にはよいところがあると思いますか。	31.0	43.4
将来の夢や目標を持っていますか。	52.4	60.6
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	66.7	71.1
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	76.2	79.5

就寝時刻が定まっていないのが気になります。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていけることはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

褒める指導を積極的に行うことで、自己肯定感を高めるようにしましょう。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。「3時間以上」	2.4	11.0
「2時間以上、3時間より少ない」	11.9	12.5
「1時間以上、2時間より少ない」	38.1	31.1
「30分以上、1時間より少ない」	26.2	27.0
「30分より少ない」	11.9	13.0
「全くしない」	9.5	5.3

家庭学習については、全国平均と比べ「1時間以上、2時間より少ない」児童が多いようです。1時間未満の児童が4割以上おり、中には全く家庭学習をしていない児童も少なくありません。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）については多くの学年で取り組み、お手本になる自学ノートを紹介して、自学の仕方を指導しています。
- 朝の読書タイム、地域と連携した読み語りの「やまびこタイム」を設け、読書を推奨しています。また、図書委員を中心に読書イベントも行っており、読書の機会を増やすための工夫をしています。読書が好きな児童が増えているので、これからも継続していきます。

【ご家庭では】

- 上記の項目の結果について、改善にもなる「家庭学習がんばり週間」が定期的にあります。規則正しい生活と家庭学習の定着は、極めて大切なことです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。
- 「巨勢小家庭学習の手引き」をご覧ください。学習時間のめやすや、自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。